

2
インタビュー

CONTENTS

- 4・〈療養指導最前線〉療養指導のポイント
腎臓病とOTC医薬品
～トリプルワーマーに注意～
- 6・普及啓発 診療連携
京都府
- 8・皆でシェアしたい
CKD診療のUpdate
CKD患者の生活習慣、
どうすればいい？
- 9・患者さんからの声
馬上 星一さん
- 10-11・KRI-J活動
企業との連携/KRI-J活動報告
- 12・JKA活動報告
編集後記



〈療養指導最前線〉
CKDEとして、より良く生きるをサポート
「生活目標」でその人らしく

エンジン
「&Jin」は、腎臓病とともに生きる「and腎」という意味に加え、人と人の「縁」、人を思いやり慈しむ心である「仁」の意味を込めた誌名です。
人生100年時代の今、腎臓に関わる人々が「円陣」を組み、前進するための原動力「エンジン」となる存在でありたいと願っています。



腎臓専門医が非専門医や多職種らを牽引 多くの医療関係者が積極的に参画する All 京都で臨む実効性の高いCKD対策

八田 告 氏 (医療法人 八田内科医院 院長)

取材: 福井 亮 (東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科 講師)

京都府におけるCKDの課題は何ですか？

京都府では、京都市と京都府のそれぞれが糖尿病対策とともにCKD対策に取り組んでいます。夏は暑く冬底冷えする盆地である京都市内と、海沿いの豪雪地帯である北部地域という多彩な環境を持つことから、各地域に適した患者さんへの対応が求められています。

「薄味」のイメージがある京都ですが、他府県同様に食塩摂取量は多く、多くの老舗の漬物店があり、冬は漬物による塩分過多で足の浮腫で慌てて受診する高齢者も後を絶ちません。また、パン屋が全国で一番多く、塩分の多いパン食もCKDリスクを高める要因の1つです。伝統的な食文化を尊重しつつ、健康的な食習慣を普及啓発していくことが重要です。

患者動向では、透析導入数は、高齢化とともにあまり減っていないのが現状で(図1)、2018年から動き出した糖尿病性腎症重症化予防プログラムの今後の成果に期待をしています。

また腎臓専門医の偏在は大きな課題で、専門医の多くが京都市内に集中しています(図2)。専門医が少ない地域では、泌尿器科や糖尿病内科の医師がCKD診療を担っています。

京都府糖尿病性腎症重症化予防プログラムの特長は？

京都府にはCKD対策を議論する会議体はありませんが、糖尿病性腎症重症化予防プログラムに則った会議の運営に腎臓専門医が深く関わっています。プログラムは糖尿病重症化予防戦略会議が府の方針を決定し、各地域の戦略会議を通じて京都市を含む8つの保健所で具体的な対策が実施される仕組みです。

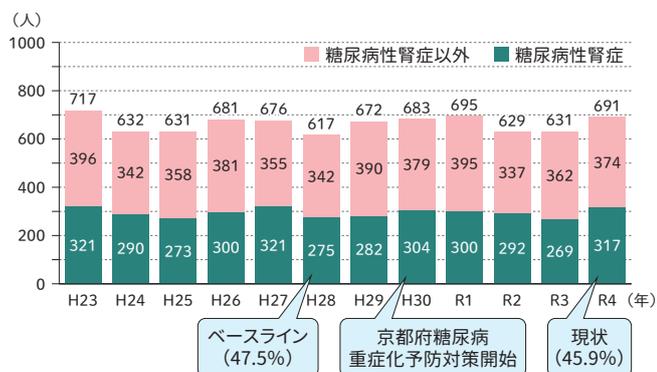
京都府版eGFRプロットシートはプログラムで開発された共有ツールで、保健師が特定健診データからプロットシートを作成し、eGFRスロープを可視化することで、受診勧奨やハイリスク者対策に活用しています(図3)。更に、かかりつけ医の利用を促進するため、企業の協力を得て「京都府版eGFRプロットシート普及サポートプロジェクト」を展開、府内各地で同時多発的に講演会を開催しています。

多くの医療関係者がCKD対策に参画していますが、具体的にどのような活動をしていますか？

■ J-CKDI (日本腎臓病協会慢性腎臓病対策部会)

非糖尿病関連CKDに焦点を当てた議論の場は不足しており、今後、CKD対策全般を協議する会議体の設置が強く望まれます。J-CKDIでは、京都府代表の柳田先生、同地区幹事の家原先生、金森先生、そして私の4名が、必要に応じて意見統一し、京都府におけるCKD問題をoverlookできるようにしています。

図1 新規人工透析導入患者数の推移



糖尿病性腎症の割合	
京都府	45.9%
全国	38.7%

糖尿病が原因の透析
全体の約46%を占める
全国より割合が高い。

出典：一般社団法人 日本透析医学会年末透析患者数の推移について
京都府糖尿病重症化予防戦略会議資料より抜粋

図2 京都府における専門医の偏在





◀ 京都腎臓医学会
公式ホームページ

京都腎臓高血圧談話会 ▶
公式ホームページ



京都府や各市町村と共に対応する糖尿病関連CKDはもとより、非糖尿病のCKDも視野に入れ、多職種が様々な形で連携を組んで取り込む腎臓病対策の動向をご紹介します。

嵐山・渡月橋

■京都府医師会の専門医会としての京都腎臓医学会

京都腎臓医学会は、腎臓病進展阻止を主な目的として、2018年に京都府医師会の専門医会として設立されました。学閥と専門領域を超えて、腎臓専門医のみならず、糖尿病専門医、循環器専門医、泌尿器専門医、腎移植に関わる医師、そして腎臓に興味のあるかかりつけ医からなる、府全体のCKD対策に関する意見交換や情報共有の要であり、現在では約235名に上ります。

■メディカルスタッフが集う京都腎臓・高血圧談話会

主にメディカルスタッフのために2015年に創設し、その中に腎臓病療養指導士(CKDE)で構成される京都腎臓病療養指導士会(CKDE-Kyoto)も作りしました。会員からは、組織に所属することで孤立感が解消され、意欲的に活動に取り組めるようになったとの声も聞かれます。「京都に1人でも多くのCKDEを!」という目標を掲げ、CKDE資格取得支援のための独自のCKDE認定試験対策講習会も開催するなど、専門性の高い医療従事者の育成にも力を入れています。また公共の場を活用し、腎臓クイズ・栄養相談・よさこいパフォーマンスなど多様なコンテンツを通じて、幅広い層への啓発活動も行っています。

非糖尿病のCKD対策強化に向けた今後の活動は?

まず、京都府にCKD全般に関する会議体を設置することです。また先述したeGFRプロットシートをかかりつけ医の先生方にご利

用頂くために、検査会社とも連携して、電子カルテでの自動可視化を目指します。これが実現できれば、専門医への早期紹介を促進し、逆紹介後のかかりつけ医のCKD診療への参画も飛躍的に進むのではないのでしょうか。

更に、薬物療法の安全性を高めることを目的に、腎機能に注意が必要な患者さんを医療関係者が見落とさないための「チェックCKDシール」を作成しましたが、将来的には電子お薬手帳への対応も視野に入れ、薬剤師会との連携を強化していく予定です。

いずれにせよ各専門職がお互いの知識やスキルを尊重・連携し、信頼関係を築くことが不可欠です。多職種連携の力をより多くの人に実感してもらいながら、今後も様々な活動を展開していきます。

Dr. FUKUI's Viewpoint



糖尿病性腎症重症化予防プログラムの成果

多くの自治体で実施され、大きな成果が期待されますが、実効性には地域差があると感じます。是非、地域の実情をご確認ください。また、軽症者が対象のケースが多く、透析導入減少という成果を得るには長い年月がかかるため、改良を加えながら継続的に取り組むことが望まれます。

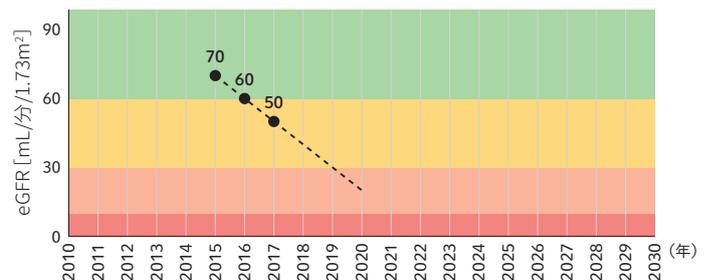
3 eGFRプロットシート

氏名	お名前はここに	さん
計算結果一覧表		
eGFR減少値	(年単位の減少値)	-10.0
eGFR減少率	(年単位の直近2時点)	-16.6%
	(年単位の最新/最古2時点)	-14.3%
eGFR予測値	(最新測定時点から3年後)	20.0

eGFRとは?(簡単な説明)

- ・読み方はイー・ジー・エフ・アールです。
- ・今の腎臓の機能を表す値です。
- ・一般的には、60を下回ると腎臓が弱ってきている、30を下回ると腎臓がかなり弱っている、10を下回ると透析を始める必要が出てきていると判断されます。
- ・詳しくは保健指導者にお尋ねください

あなたのeGFRの推移



あなたの腎症病期の推移

